

# 機関保証制度に対する アンケート調査結果

平成28年2月9日

日本国際教育支援協会

機関保証センター

# 概要

## 趣旨

奨学生の機関保証への加入率の向上、制度の周知及び理解度の調査を目的として、平成17年度より卒業を迎える奨学生を対象としたアンケート調査を実施している。

代位弁済後の返済と個人信用情報機関の登録についてそれぞれ質問事項を分けることで、機関保証制度に対する認識度を確認した。

## 調査内容

- ・奨学金の申込時期
- ・機関保証への加入理由
- ・機関保証に加入しなかった理由
- ・機関保証選択者に対し、代位弁済されても債務は消滅しないことについての認識度、認識した時期
- ・機関保証選択者に対し、延滞後、個人信用情報機関に延滞情報が登録されることについての認識度、認識した時期

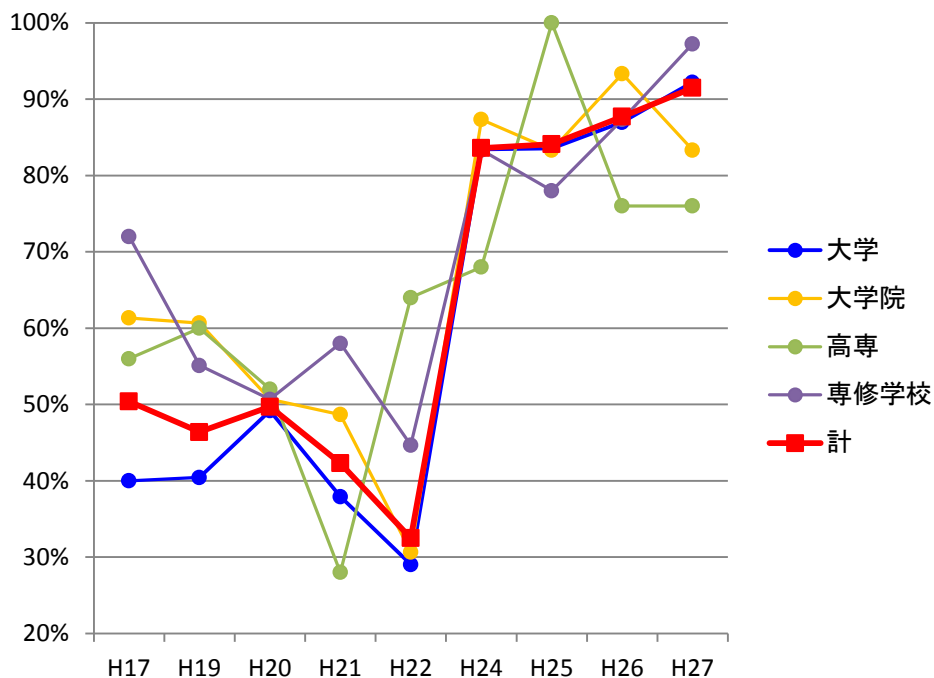
## 対象者

平成28年3月満期者(1,100人)を対象とする。(対象者の内訳は、学種別機関保証加入者数の割合による)

奨学生の保証制度(人的保証・機関保証)、及び奨学金の種類(一種、二種)は問わない

# 回答率

## 過去の調査との比較



平成22年度までは各学校の奨学金担当者から奨学生にアンケート用紙を配布してもらい、奨学生から直接協会へアンケートを返送してもらう形式をとっていたが、平成24年度より、各学校の奨学金担当者に、アンケート用紙の回収及び協会への返送を依頼する形式に変更して以降、回答率が上昇を続けている。今回の調査では回答率92%となった。

平成27年度は締切の早期化(前年度以前は3月31日だったものを2月5日に変更)や送付件数の増加があったが、回答率にマイナスの影響はなかった。

学種別の回答率は、大学、専修学校で前回調査より増加、ともに初めて90%を超えた。

	大学院			大学			高専			専修学校			計		
	送付件数	回答数	回答率	送付件数	回答数	回答率	送付件数	回答数	回答率	送付件数	回答数	回答率	送付件数	回答数	回答率
H17年度	75	46	61%	300	120	40%	25	14	56%	100	72	72%	500	252	50%
H19年度	150	91	61%	675	273	40%	25	15	60%	176	97	55%	1,026	476	46%
H20年度	150	76	51%	675	332	49%	25	13	52%	150	76	51%	1,000	497	50%
H21年度	150	73	49%	675	256	38%	25	7	28%	150	87	58%	1,000	423	42%
H22年度	150	46	31%	675	196	29%	25	16	64%	150	67	45%	1,000	325	33%
H24年度	150	131	87%	675	563	83%	25	17	68%	150	125	83%	1,000	836	84%
H25年度	150	125	83%	675	564	84%	35	35	100%	150	117	78%	1,010	841	83%
H26年度	150	140	93%	675	587	87%	25	19	76%	150	131	87%	1,000	877	88%
<b>H27年度</b>	<b>150</b>	<b>125</b>	<b>83%</b>	<b>745</b>	<b>687</b>	<b>92%</b>	<b>25</b>	<b>19</b>	<b>76%</b>	<b>180</b>	<b>177</b>	<b>98%</b>	<b>1,100</b>	<b>1,008</b>	<b>92%</b>

※H25年度(高専)において、学校担当者がアンケート用紙をコピーして配布し、当該学種の送付件数以上の回答があったため、送付件数を回答件数と同数としている。

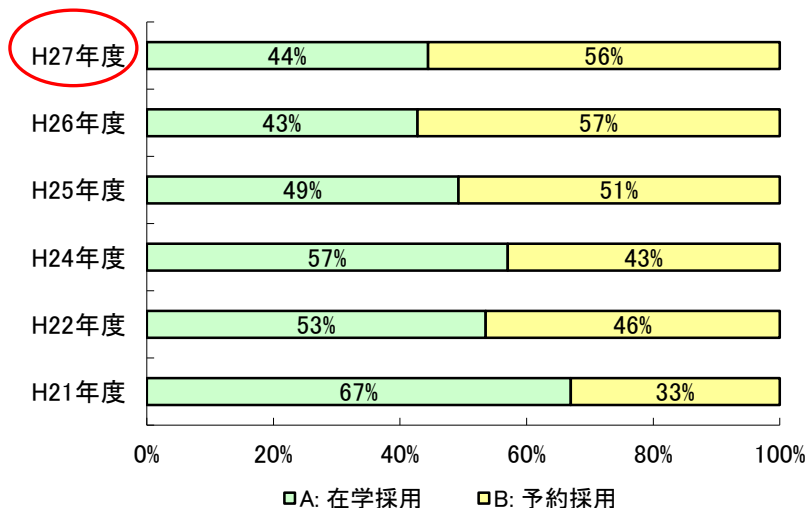
# 項目1. 奨学金の申込時期

質問:奨学金を申し込んだのはいつですか。

A. 在学している学校に入学した後(在学採用者)

B. 在学している学校に入学する前(予約採用者)

(例. 高校3年生の時)



## 過去の調査との比較

平成20年度実施の学校担当者対象の調査により、学校担当者から要注意と指摘された予約採用奨学生の機関保証制度に対する認識度を確認するため、採用時期についての質問を平成21年度より実施している。

今回の調査では、予約採用者の割合が56%と平成26年度の57%に次いで、過去2番目に高い割合となった。

※ 平成20年度以前の調査では、当項目に関する調査は実施せず

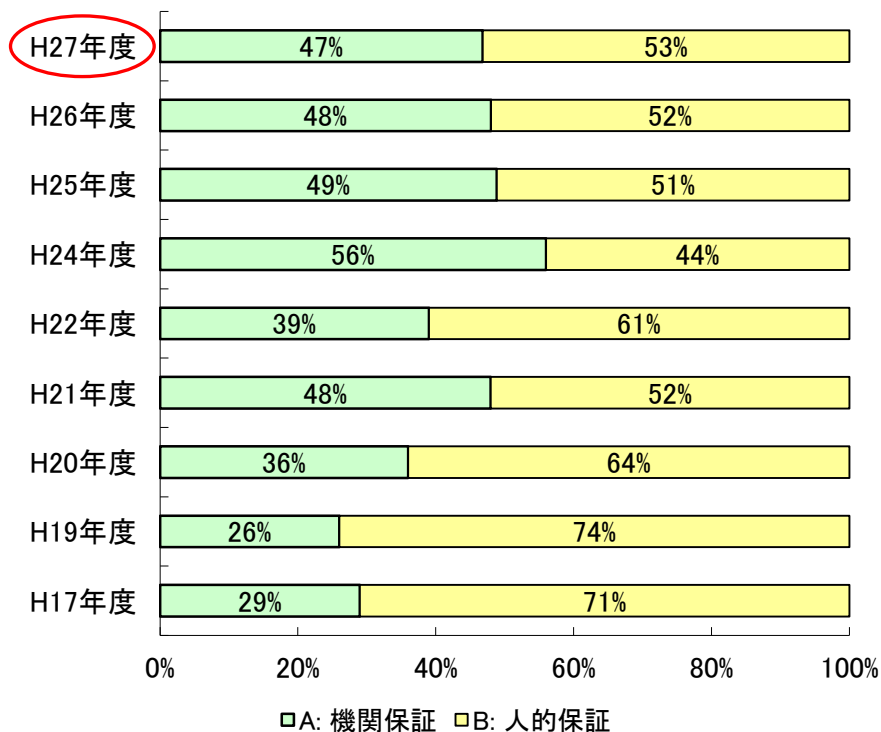
	大学院		大学		高専		専修学校		計	
	在学採用	予約採用	在学採用	予約採用	在学採用	予約採用	在学採用	予約採用	在学採用	予約採用
H21年度	59	14	169	87	7	0	50	37	285	138
H22年度	33	13	105	91	13	3	23	44	174	151
H24年度	83	48	308	255	16	1	69	56	476	360
H25年度	74	51	275	289	26	9	39	78	414	427
H26年度	73	67	233	354	14	5	55	76	375	502
<b>H27年度</b>	<b>63</b>	<b>62</b>	<b>298</b>	<b>389</b>	<b>15</b>	<b>4</b>	<b>72</b>	<b>105</b>	<b>448</b>	<b>560</b>

## 項目2. 機関保証加入の有無

質問:機関保証に加入していますか。

A. はい (機関保証)

B. いいえ (人的保証)



### 過去の調査との比較

今回の調査では、前回調査と同様、機関保証加入者の割合が、人的保証加入者の割合とほぼ同程度となった。

#### 【参考】 機関保証選択率

平成20年度	37.8%	平成25年度	48.0%
平成21年度	39.5%	平成26年度	46.3%
平成22年度	45.6%	平成27年度	43.3% (平成27年12月末時点)
平成24年度	46.7%		

(単位: 件)

区分	計	大学院	大学	高専	専修
機関保証	472	54	314	15	89
人的保証	536	71	373	4	88

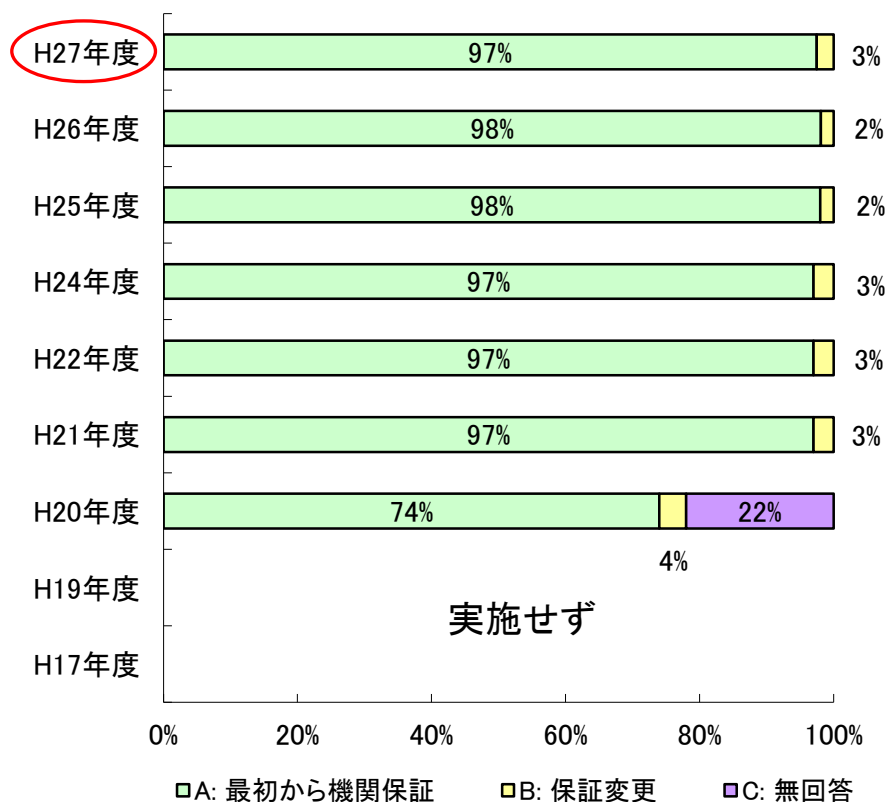
※ 平成17年度、19年度の調査では、奨学金を申し込んだ時点で調査したため、保証変更者は機関保証加入者に含まれない。

※ 平成20年度以降の調査では、アンケート記入時点で調査しているため、保証変更者は機関保証加入者に含まれる。

### 項目3. 機関保証への加入時期

質問: 機関保証に加入したのはいつですか。

- A. 奨学生に採用された時 (最初から機関保証である)
- B. 奨学生に採用された後 (途中で、人的保証から機関保証に変更した)



#### 過去の調査との比較

今回の調査では、前回調査と同様、最初から機関保証に加入した人の割合が非常に高かった。

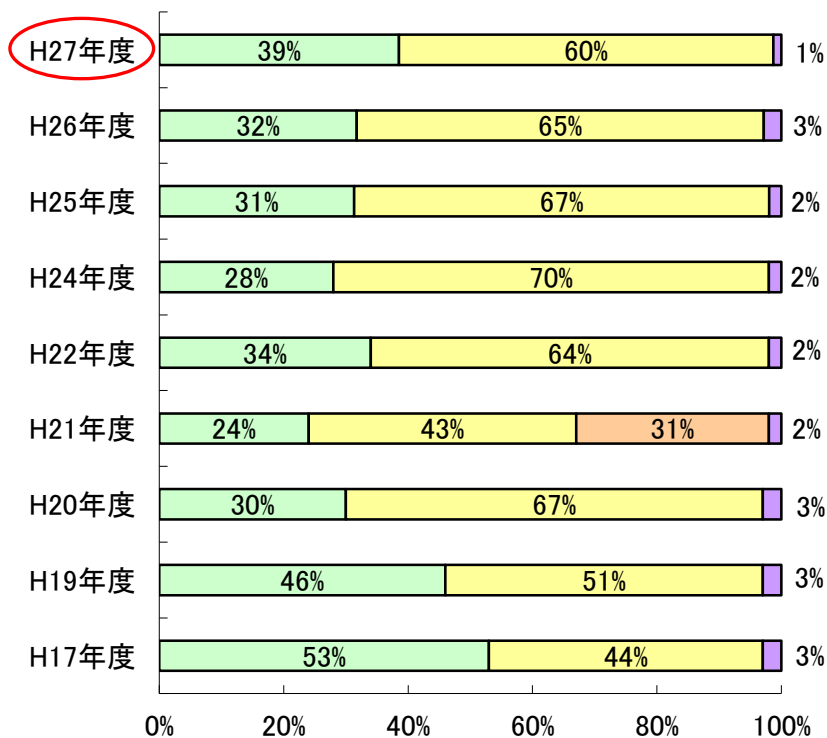
(単位: 件)

区分	内訳 (在学/予約)	大学院	大学	高专	専修
最初から 機関保証	460 (203 / 257)	50	309	14	87
保証変更	12 (6/6)	4	5	1	2

## 項目4. 機関保証への加入理由

質問: 機関保証に加入した主な理由は何ですか。

- A. 連帯保証人・保証人をたてることができないため
- B. 自分の意志と責任において奨学金の貸与を受けるため
- C. その他



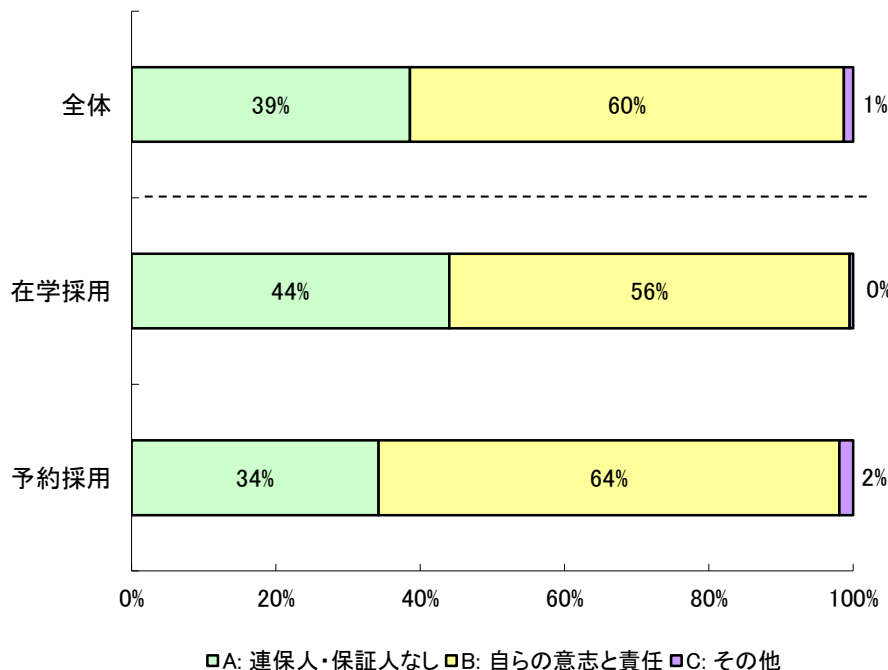
### 過去の調査との比較

平成21年度の調査では、奨学生本人の意志による選択率をより明確にするために、加入理由に「B'. 家族の勧め」を追加した。しかし、家族がどういった理由で奨学生本人に勧めているか不明確なため、平成22年度以降の調査は平成20年度以前の選択肢に戻している。

平成24年度の調査では「B. 自らの意志と責任」による加入理由が70%だったが、それ以降減少を続け、今回の調査では60%となり、3年間で1割減少する結果となった。それに比例し、「A. 連保人・保証人なし」による加入理由がここ3年間で約1割増加したことがわかった。

□A: 連保人・保証人なし □B: 自らの意志と責任 □B': 家族の勧め □C: その他

## 項目4. 機関保証への加入理由(採用種別・学種別の比較)



### 今回の調査結果

#### 【採用種別の比較】

在学採用者、予約採用者ともに「B.自らの意志と責任」による加入理由の割合が最も高く、予約採用者のほうが「B」を選択する割合が高かった。一方、「A.連保人・保証人なし」を選択した割合は、在学採用者が前回調査の32%から44%に増加した。

「C.その他」の理由として、「親のすすめ」という回答のほかに、「連帯保証人となる人に迷惑をかけたくない」「周囲が奨学金について協力的でなかったため」との回答があった(全て予約採用者)。

#### 【学種別の比較】

学種別においては、高専での「B.自らの意志と責任」による加入理由が66.7%となり、前回調査同様、他学種と比較して高かった。

(単位: 件)

区分	計	A	B	C
在学採用	209	92 (44.0%)	116 (55.5%)	1 (0.5%)
予約採用	263	90 (34.2%)	168 (63.9%)	5 (1.9%)

複数回答あり

※表中の割合は、合計して100%にならない場合があります。

(単位: 件)

区分	回答数	大学院	大学	高専	専修
A	182	27(11) (50.0%)	116(62) (36.9%)	5(2) (33.3%)	34(15) (38.2%)
B	284	27(12) (50.0%)	193(124) (61.5%)	10(1) (66.7%)	54(31) (60.7%)
C	6	0(0) (0.0%)	5(4) (1.6%)	0(0) (0.0%)	1(1) (1.1%)

上段()内の数字は回答件数のうち予約採用者の選択件数

下段()の割合は各学種における回答率



## (参考)項目5と項目6の質問内容の変更

- 平成22年度調査までは、「代位弁済後に債務が消滅しないこと」と「個人信用情報機関への代弁情報の登録」について、まとめて1つの項目で質問していた。

項目⑤ 質問:何かの事情で奨学金の返還ができなくなった場合、日本国際教育支援協会は、貴方に代わり日本学生支援機構に代位弁済しますが、これにより貴方の債務が消滅するわけではありません。代位弁済後、貴方の債務が消滅することはないこと、個人信用情報機関(いわゆるブラックリスト)に代位弁済されたという情報が登録されることを知っていますか。

- 平成24年度調査より、機関保証制度に対する認識度をより詳しく確認するため、質問事項を「代位弁済後の返済」と「個人信用情報機関への代弁情報の登録」に分けた。

### 項目5. 代位弁済後の返済について

質問: 奨学金の返還を一定の期間延滞した場合、日本国際教育支援協会は、貴方に代わり日本学生支援機構に返済(代位弁済)しますが、その後、貴方に一括して返済を請求します。代位弁済されても、貴方の債務が消滅することにはならないことを知っていますか。

### 項目6. 個信登録について

質問: 代位弁済後、個人信用情報機関に代位弁済されたという情報が登録されることを知っていますか。

- 「代弁情報」に先行して「延滞情報」が個信に登録されるため、平成27年度調査では、項目6の個信登録についてを、個信への「代弁情報」の登録から「延滞情報」の登録に変更した。

### 項目5. 代位弁済後の返済について

質問: 変更なし

### 項目6. 個信登録について

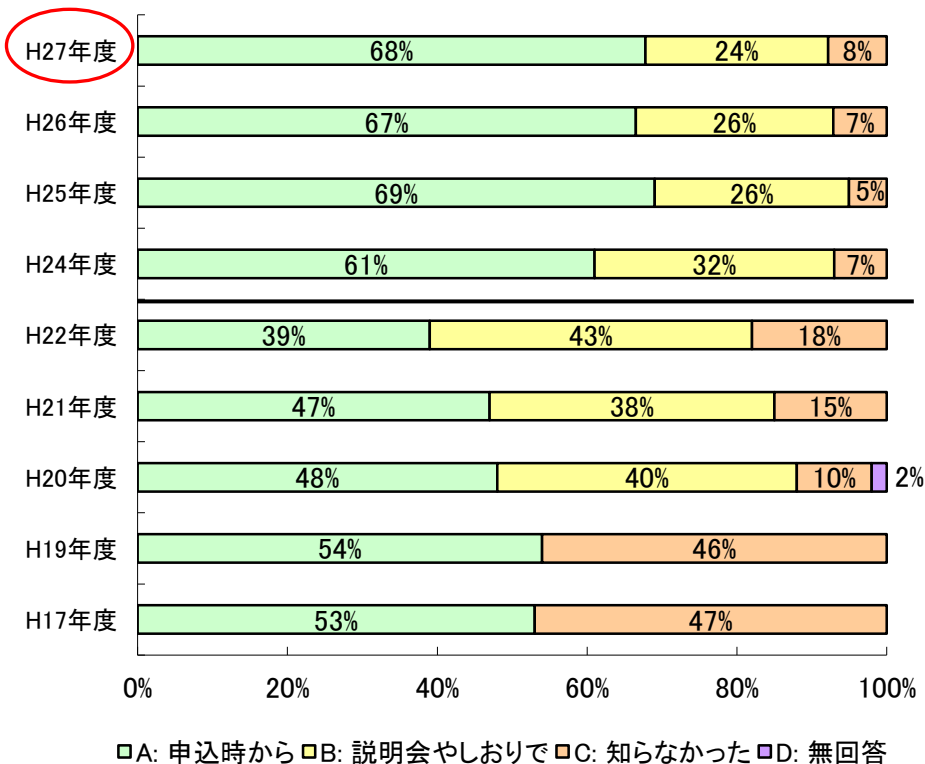
質問: 奨学金の返還を延滞した場合、個人信用情報機関に延滞情報が登録されることを知っていますか。

## 項目5. 代位弁済後の返済について

質問：奨学金の返還を一定の期間延滞した場合、日本国際教育支援協会は、貴方に代わり日本学生支援機構に返済（代位弁済）しますが、その後、貴方に一括して返済を請求します。代位弁済されても、貴方の債務が消滅することにはならないことを知っていますか。

- A. 奨学金申込時より知っている。
- B. 奨学生に採用された後、学校の説明や「奨学生のしおり」等の書類、返還説明会により知った。
- C. 知らなかった。

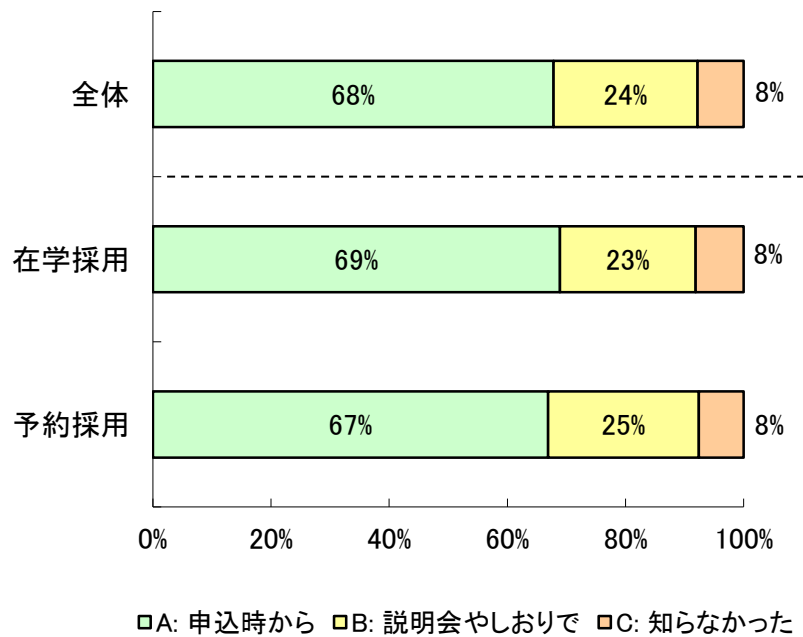
※ H24年度以降は、代位弁済後の返済についてのみ質問



### 過去の調査との比較

今回の調査では、全ての選択肢において前回、前々回調査と比べてあまり大きな変化は見られなかったが、「C. 知らなかった」と答えた割合は前回、前々回調査よりもわずかに増加した。

## 項目5. 代位弁済後の返済について(採用種別・学種別の比較)



(単位: 件)

区分	計	A	B	C
在学採用	209	144 (68.9%)	48 (23.0%)	17 (8.1%)
予約採用	263	176 (66.9%)	67 (25.5%)	20 (7.6%)

※表中の割合は、合計して100%にならない場合があります。

### 今回の調査結果

#### 【採用種別の比較】

代位弁済後の返済について「C.知らなかった」と答えた割合は、在学採用者、予約採用者ともに約8%となり、今回調査では採用種別によって周知に差は見られなかった。

#### 【学種別の比較】

どの学種においても「A.申込時より知っている」と答えた割合が最も高い結果となった。高等専門学校では「B.説明会やしおりで知った」と答えた割合が、「A」と同じ40%と他学種よりも高い割合になっている。また、「C.知らなかった」と答えた割合は大学院で5.5%(前回調査は1.7%)、高等専門学校で20%(前回、前々回調査は0%)と前回調査と比べて高くなった。一方、大学と専修学校においては前回調査とほぼ同じ割合となっている。

(単位: 件)

区分	回答数	大学院	大学	高専	専修
A	320	40(16) (74.1%)	221(134) (70.4%)	6(1) (40.0%)	53(25) (59.6%)
B	115	11(6) (20.4%)	71(44) (22.6%)	6(2) (40.0%)	27(15) (30.3%)
C	37	3(1) (5.5%)	22(12) (7.0%)	3(0) (20.0%)	9(7) (10.1%)

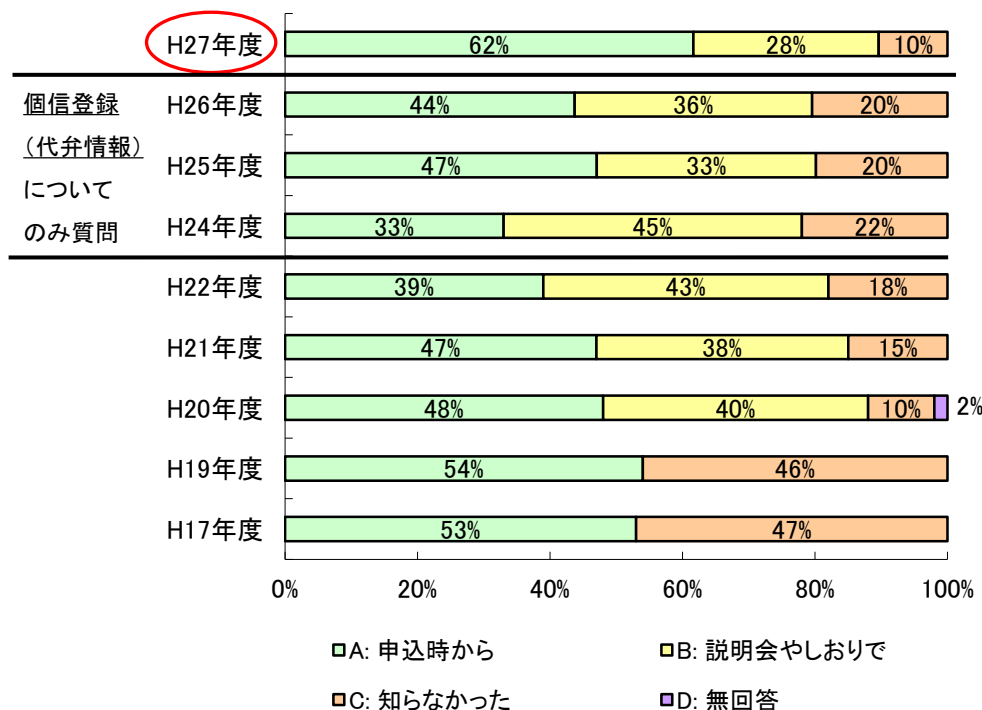
上段()内の数字は回答件数のうち予約採用者の選択件数

下段()内の割合は各学種における回答率

## 項目6. 個信登録(延滞情報)について

質問: 奨学金の返還を延滞した場合、個人情報機関に延滞情報が登録されることを知っていますか。

- A. 奨学金申込時より知っている。
- B. 奨学生に採用された後、学校の説明や「奨学生のしおり」等の書類、返還説明会により知った。
- C. 知らなかった。

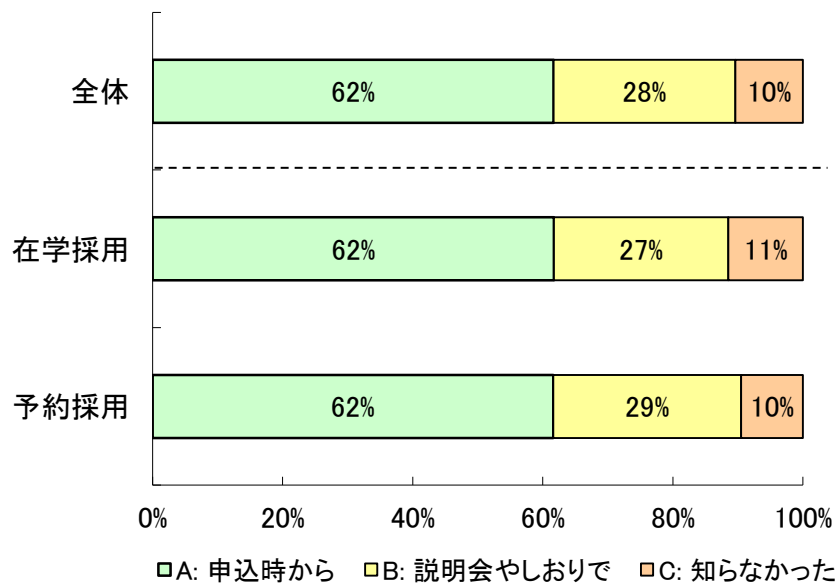


### 過去の調査との比較

今回の調査では、前回調査までは代弁情報の個信登録に対する認識度を調査してきたが、今回調査では初めて延滞情報の個信登録に対する認識度について調査した。

前回以前の調査(代弁情報の個信登録)と比べて、「A. 申込時より知っている」と答えた割合が約2割増加したことから、採用時から延滞情報の個信登録を知っている奨学生が多いことがわかる。一方で「C. 知らなかった」と回答した割合が10%であることから代弁情報だけでなく、延滞情報の個信登録についても周知が必要といえる。

## 項目6. 個信登録について(採用種別・学種別の比較)



(単位: 件)

区分	計	A	B	C
在学採用	209	129 (61.7%)	56 (26.8%)	24 (11.5%)
予約採用	263	162 (61.6%)	76 (28.9%)	25 (9.5%)

※表中の割合は、合計して100%にならない場合があります。

### 今回の調査結果

#### 【採用種別の比較】

個信登録についての全ての選択肢において、在学採用者も予約採用者もほぼ同じ割合となった。

前回調査までの「個信登録(代弁情報)」については、在学採用者よりも予約採用者のほうが「C.知らなかった」と回答する割合が低い結果となっていたが、今回調査の「個信登録(延滞情報)」については、在学採用者と予約採用者の間に差は見られなかった。

#### 【学種別の比較】

「C.知らなかった」と回答した割合は、高専以外の学種で前回調査より半減しており、前回調査の「個信登録(代弁情報)」よりも、「個信登録(延滞情報)」のほうが周知が進んでいることがわかった。

(単位: 件)

区分	回答数	大学院	大学	高専	専修
A	291	34(14) (63.0%)	202(126) (64.3%)	5(0) (33.3%)	50(22) (56.2%)
B	132	17(9) (31.5%)	77(45) (24.5%)	6(3) (40.0%)	32(19) (36.0%)
C	49	3(0) (5.6%)	35(19) (11.1%)	4(0) (26.7%)	7(6) (7.9%)

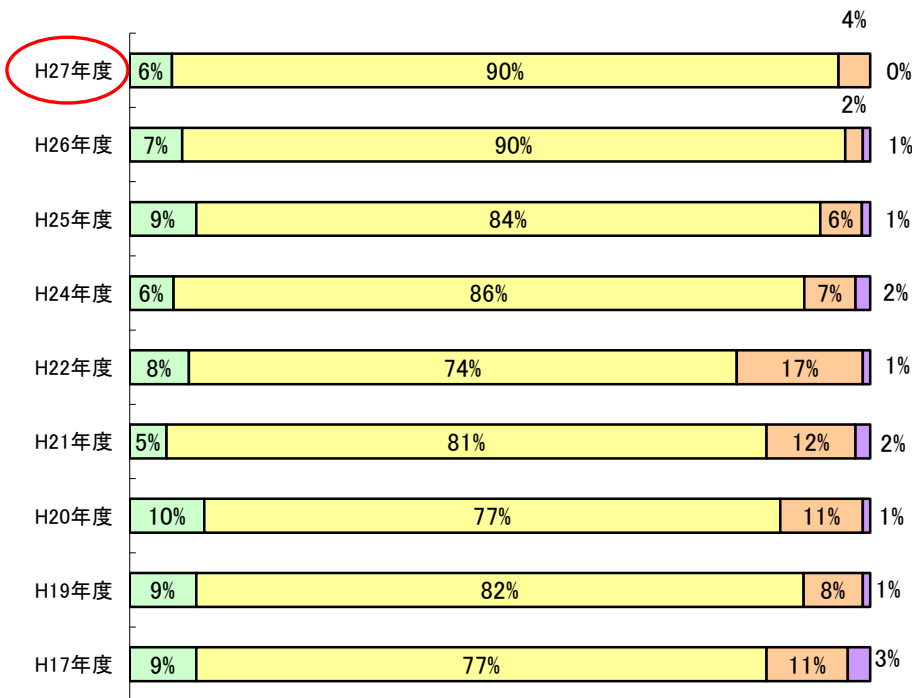
上段()内の数字は回答件数のうち予約採用者の選択件数

下段()の割合は各学種における、回答率を表している。

## 項目7. 機関保証に加入しなかった理由

質問:機関保証に加入しなかった主な理由は何ですか。

- A. 機関保証制度があることを知らなかった
- B. 連帯保証人・保証人をたてることができた
- C. 保証料を払いたくなかった
- D. その他



- A: 制度を知らない
- B: 保証人を立てられる
- C: 保証料を払いたくなかった(H26年度までは「保証料が高い」)
- D: その他

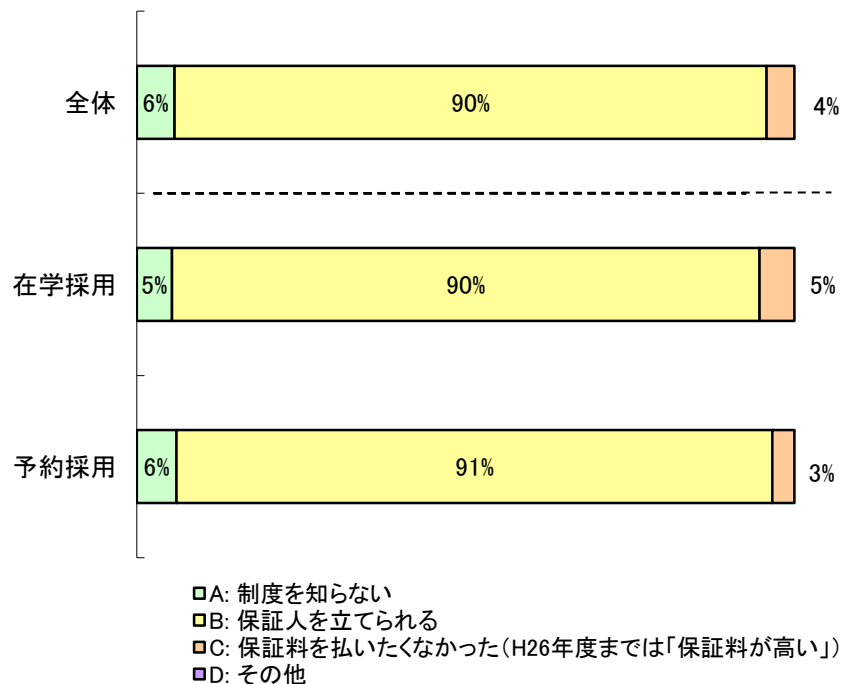
### 過去の調査との比較

今回の調査では、選択肢「C」の内容を、前回調査までの「C.保証料月額が高い」から「C.保証料を払いたくなかった」に変更して調査した。

今回の調査でも、前回調査に引き続き、全ての選択肢の中で「B.連帯保証人・保証人をたてることができた」という理由の割合が最も高く、90%であった。また、「C.保証料を払いたくなかった」と答えた割合は、4%であった。

前回調査では、「D.その他」で「保証料がもったいない」や「親のすすめ」という意見があったが、今回の調査では「D.その他」の回答はなかった。

## 項目7. 機関保証に加入しなかった理由(採用種別・学種別の比較)



(単位: 件)

区分	計	A	B	C	D
在学採用	242	13 (5.4%)	216 (89.3%)	13 (5.4%)	0 (0.0%)
予約採用	298	18 (6.0%)	270 (90.6%)	10 (3.4%)	0 (0.0%)

複数回答あり

※表中の割合は、合計して100%にならない場合があります。

### 今回の調査結果

#### 【採用種別の比較】

採用種別では、在学採用・予約採用ともに、「B. 連帯保証人・保証人をたてることができた」による理由の割合が最も高かった。

前回の調査では、「A. 制度を知らない」と答えた割合が在学採用者よりも予約採用者のほうが高かった(在学採用者の1.8倍)が、今回の調査では在学採用者と予約採用者でほとんど差はなかった。

#### 【学種別の比較】

すべての学種で「B. 連帯保証人・保証人をたてることができた」と答えた割合が最も高かった。

(単位: 件)

区分	回答数	大学院	大学	高専	専修
A	31	5(4) (6.9%)	23 (12) (6.1%)	0(0) (0.0%)	3(2) (3.4%)
B	486	60(30) (83.3%)	338(184) (90.1%)	4(1) (100.0%)	84(55) (94.4%)
C	23	7(5) (9.7%)	14 (4) (3.7%)	0(0) (0.0%)	2 (1) (2.2%)
D	0	0(0) (0.0%)	0 (0) (0.0%)	0(0) (0.0%)	0(0) (0.0%)

上段()内の数字は回答件数のうち予約採用者の選択件数

下段()の割合は各学種における回答率